

<今年の国際宝飾展>

デザイナーブースから一般展示スペースへ移動しての出展。壁面と床はBIZカラーのグリーンの濃淡。展示台は甲府BIZギャラリー使用のケースで陳列。新作も揃え、バッチリ… ところが、その直前シマダはヒザ骨折。入院先の病院から直行の一日半だけのブース滞在。いつもこの時期に顔を合わせる人たちとのしばしの歓談で賑やか。新しい仕事の相談もある中、想定外の規模の海外企画もあり、判別不能な話も。しかし、思えばこれもBIZには時折ありがちなジャンルなのかもしれない。それはさておき本格的に仕事に復帰するのはいつのことになるのか。



今年のブースで

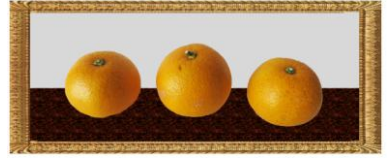
<古代ローマ、そしてカエサルという男>

リハビリが始まるまでの入院生活は塩野七生の“ローマ人の物語”のうちのジュリアス・シーザー（カエサル）の時代の再読。何度読んでも楽しい。紀元前100年の貧乏貴族に生まれ、遅咲きの政界入り。50余年の生涯のうちに現在のドイツ・イギリス・アフリカ・中東までをローマ世界に拡張し蛮族（ローマは文明世界、それ以外は蛮族。実際文化度が格段に違う）を倒していく戦いぶり。その捕虜たちをローマ市民として組み入れつつ味方とし遙かドナウを越えた地からもローマの政治をコントロール、拡大したローマ世界を如何に統治するかの一貫した考え。その半面、若いころからの借金まみれを堂々と繰り返す（その金は個人所有の軍団と女に使った）兵士たちはカエサルの下で戦えることを喜び、多くの浮気した女たちを一人として悲しませることもなかった。残された言葉の数々は今の時代にも心を打つものがあり、又、聖書の中にもその引用がみられる。2000年を超える以前とは思えない文明社会と鮮やかな人間像を楽しんだ入院生活でした。

後記 ギブスカットのその日からリハビリ開始。紀元前のワクワク世界が少し遠くに。これも健全な脚を取り戻すため。

<庭の八朔>

サッパリ眼の覚めるような爽やかさ。程よい酸味。ダレた甘さがない。聞くと岐阜の民家の庭でさしたる手入れもせず実った八朔だという。手をかけた美味しい料理があるのは当たり前。手をかけないという鮮やかな味に感激するのも今時なのか。



自然に育った岐阜の八朔

<縮絨（しゅくじゅう）>

小淵沢在住の指導者の下にフェルト創りに通っていたことがある。現在は指導者の都合により中止している。創れないとなるとフェルトって何だったのか。あの優しさ、温もり、そして何よりその強さ。繊細でありながら強靱なのだ。フェルトは最初は頼りない細い羊毛たちで、石鹼溶液、お湯などで湿らせ圧力や摩擦を加えて収縮する。この工程を縮絨というらしい。そのプロセスは始めは優しく優しく撫で撫でしているのに、次第に意地悪になりいじめが始まる。殴り叩きつけ、やがては力いっぱい踏みつける。こうやってか弱い糸は強靱な精神を持つようになり、充実して力強く、水、冷氣からも守る柔らかい防壁になる。その形は自在。平面、立体、繊細、優雅、質実といくつもの面を持つ。ヒトもそうやって縮絨され優しく、強くなれるのか。



帽子の形をした
フェルト製ポットウオーマー

<ホワイトカルセドニーシリーズ>

山梨の研磨師の素晴らしい立体彫刻に精緻な手造り加工。使用地金をSVとしたことで、ペンダントネックレスは上代10万円台に。



R-0438
ホワイトカルセドニー SV
ブルーサファイア ダイ
ピンクサファイア



PN-0477
ホワイトカルセドニー SV
カイト ダイ

<My Candle を創る～第2回>

初回制作のキャンドルに灯をともしってみました。それは想像を超える美しさ。様々な色が温かくキラキラ輝くのです！ 次は日常を楽しむキャンドルを創りましょう！ 実施予定4月